

4

みんなで創る多機能な力を有したまちの創生 「住んでよしのやわたチャレンジプロジェクト」

↑ 基本的方向

○八幡には豊かな自然や魅力的な歴史・文化など、暮らしに潤いをもたらす資源がたくさんありますが、それらの磨き上げや情報発信は十分ではありません。人口減少社会を見据え、20代を中心とした若い世代の移住・定住を促進していくためには、これまでの「生活都市」から脱却し、デジタルの力を取り入れながら、市内の仕事の場の創出や暮らしを楽しめる場の整備など、より安心・安全で多機能な力を有した、生活に潤いをもたらすまちへの転換が必要となっています。今後、若者から高齢者まで、外国人を含めた市民一人ひとりが地域や身のまわりの課題の解決に向けて何ができるかを考え、行政や地域団体など様々な組織や人と連携しながら、「みんなで創る」誰もが便利で快適に暮らせる持続可能なまちづくりを推進するとともに、その中心となる担い手の育成に取り組みます。

↑ 基本目標

基本目標	現状値 (R5)	目標値 (R11)
転出入者数 (※17)	〇〇人	0人以上
地域で活動する団体や住民が連携するネットワークの設置数	7団体	6団体
まちの魅力度 (全国順位) (※18)	〇〇位	200位以上
創業支援の相談者のうち創業に至った件数 (年間)	3件	4件
認定農業者数	60人	78人
八幡市ボランティア連絡協議会登録団体の所属人数	258人	310人
市内の温室効果ガス(CO ₂)排出量	306千t (R3)	310千tより低い※
スマホ教室参加者数	〇人	〇人

(※17) 住民基本台帳人口移動報告による。転出入者とは、転入者から転出者を差し引いた数とする。

(※18) 株式会社ブランド総合研究所が行う地域ブランド調査の指標の一つであり、自治体の魅力度が表されるもの。20代から60代の消費者(各年代別にほぼ同数ずつ)を対象にインターネット調査を行い、全国1,000市区町村について順位付けされている。

↑ 具体的施策

(1) 「日本一魅力的なスローライフタウン」へのチャレンジ

【関係するSDGsのゴール】



八幡市は大阪、京都という大都市の間に位置しながらも、豊かな自然を有するまちです。また、新名神高速道路全線開通や北陸新幹線京都・新大阪間のルート決定の動向などにより、そのポテンシャルがさらに高まるが見込まれています。今後は、この状況を好機と捉え、**デジタルの力を活用し**、「仕事の間」や「暮らしを楽しめる場」など多機能な力を有するまちへの転換を図るなど、**安心・安全で日本一魅力的なスローライフタウン**（※19）をめざし、八幡に住みたい・暮らし続けたいと思う人を増やす取組にチャレンジします。

KPI（※4）	現状値（R5）	目標値（R11）
松花堂庭園茶室利用者数	2,079 人	3,000 人
市内産農作物収穫体験参加者数	312 人	310 人
わがまち・八幡への愛着や誇りを感じる市民の割合	53.0%(R4)	60.0%(R9)
リカレント教育推進講座の受講者数	529 人	650 人
市域就職面接会で就業に至った人数	2 人	6 人
今後も八幡市に居住したいと思う市民の割合	77.4%(R4)	150 位以上
コンビニ交付での証明書取得率	〇%	〇%
オープンデータの公開件数	〇件	〇件
ごみ分別アプリのダウンロード数	〇件	〇件
防災アプリのダウンロード数	〇件	〇件
ホームページアクセス件数	1,139,441 件	950,000 件
LINE 公式アカウントの友だち登録者数	4,193 人	7,000 人
ふるさと応援寄附金の返礼品の数	〇件	〇件
ネーミングライツ導入施設数	－	〇施設

（※19）スローライフタウンとは、心豊かに暮らせる（＝スローライフ）まちのことを意味する。

（※20）株式会社ブランド総合研究所が行う地域ブランド調査の指標の一つであり、自治体に居住したいという意欲が表されるもの。

20代から60代の消費者（各年代別にほぼ同数ずつ）を対象にインターネット調査を行い、全国1,000市区町村について順位付けされている。

(1) 「日本一魅力的なスローライフタウン」へのチャレンジ（つづき）

施策	事業（※6）
① 環境と調和したしごとの創出 地域未来投資促進法の活用や土地利用の見直しによる農地の都市的活用等により、企業誘致を進め、地域に活力と雇用の場を創出するとともに、周辺の土地利用と調和した多面的機能を有する優良な農地の保全を図ります。 また、京都ジョブパーク、地域若者サポートステーションと連携した個別就職相談や、ハローワーク、商工会、工業会と連携した事業により雇用の創出に取り組みます。	・地域未来投資促進法に基づく八幡市基本計画策定・推進 ・個別就職相談会 ・市域就職面接会 ・就職困難者就労対策 ・生産緑地法の運用 ・京都市市町村企業誘致推進連絡会議 ・商工会活動助成 等
② 男山地域の再生 人口の約3割が居住する男山地域のまちづくりについて、男山地域まちづくり連携協定及び男山地域再生基本計画に基づく各分野の取組を進めます。	・だんだんテラス運営支援 ・地域コーディネーター配置 ・男山やってみよう会議活動支援 等
③ 自然と調和したまちの魅力の創出 日本遺産である「流れ橋周辺に広がる浜茶の景観」の保全や男山・社寺林の保護育成等への支援など、適切な保全管理を行うとともに、自然観察会や収穫体験等を通じ、八幡の豊かな自然の魅力をさらに高めるまちづくりを推進します。 また、その豊かな自然の魅力を維持するため、脱炭素社会に向けた取組の推進や資源の循環利用を促進する3Rの推進等環境に配慮した取組を進めます。 加えて、子育て環境や交通アクセス、豊かな自然、歴史・文化など、「心豊かに暮らしを楽しめる」居住地としての魅力を市内外に発信します。	・第3次八幡市環境基本計画推進 ・花のまちづくり推進 ・スマート・エコ祭開催 ・就学前環境教育推進 ・市民総参加による市内美化活動 ・農産物収穫体験 ・市民農園管理運営 ・農産物直売所運営 ・地元産米・味噌給食利用促進 等
④ やわたへの愛着と誇りの醸成 生涯学習センターや各地域の公民館・コミュニティセンター、市文化センター、松花堂庭園・美術館等において、幅広い年代層が歴史や文化芸術に触れる機会を創出するとともに、地域の祭礼や伝統行事を含め、市民が主体的に行う様々な文化芸術活動の振興及び本市の歴史文化を通じた市民間交流の促進により、本市への誇りと愛着の醸成を図ります。 また、ふるさと学習館への来館促進を図るとともに、地域や学校等への啓発に努めるなど、将来にわたって文化財を守り伝える取組を推進します。	・生涯学習推進 ・市民図書館の運営 ・八幡市・八幡浜市中学生交流【再掲】 ・文化財の保存・活用 ・文化財講座等開催【再掲】 等

(1) 「日本一魅力的なスローライフタウン」へのチャレンジ（つづき）

⑤ 安心・安全のまちの構築

八幡警察署と連携した啓発や消費生活センターによる消費者教育等に取り組むとともに、児童生徒の通行の安全確保に向け、交通安全指導員を配置し見守りを実施し、防犯・交通安全対策を推進します。

また、防災アプリの運用やクラウドファンディングを活用したトイレカーの導入、各種緊急通報システムの運用等により、危機管理体制及び消防力の強化を図るとともに、市民の防災力向上に向け、防災・減災対策等に関する情報提供や啓発を実施します。

加えて、既存ストックにおいては、八幡市公共施設等総合管理計画をはじめとする各種計画に基づき、将来的にかかる維持管理費用経費を把握し、計画的かつ効果的な更新に努めるとともに、治山・治水対策や管理不全空き家対策等を併せて推進し、安心・安全なまちの構築に取り組みます。

- ・防犯対策事業
- ・消費者教室
- ・交通安全指導員による通園通学安全指導【再掲】
- ・防災アプリ運用
- ・クラウドファンディングを活用したトイレカー導入
- ・緊急通報システム管理（NET119、Live119）
- ・災害対策啓発
- ・八幡市公共施設等総合管理計画及び個別施設計画推進
- ・市営住宅ストック総合活用計画推進
- ・道路舗装修繕計画推進
- ・危険木緊急伐採
- ・八幡市水道ビジョン推進
- ・八幡市下水道事業経営戦略推進
- ・管理不全空き家対策

等

⑥ 持続可能な行財政経営の推進

市民ニーズが多様化する中、限られた人員体制で、市民サービスの維持・向上を図るため、マイナンバーカードの活用等による行政手続きのオンライン化や AI・RPA 技術の導入等の自治体 DX に取り組むとともに、窓口業務の委託やおくやみコーナーの設置により、効果的・効率的な行政サービスの提供及び窓口サービスの向上を図ります。

また、情報発信の充実として、時代に即した情報発信方法の有効性の研究と活用の検討とともに、公共データの活用を推進します。

加えて、自主財源の確保のため、返礼品の拡充等によるふるさと応援寄附金の増加や新たな財源として、ネーミングライツ事業によるネーミングライツ料の確保に取り組みます。

- ・八幡市 IT 推進行動計画推進
- ・マイナンバー制度推進
- ・オープンデータ活用の推進
- ・おくやみコーナーの設置
- ・SNS アカウント運営
- ・ふるさと応援寄附金
- ・ネーミングライツの導入

等

●デジタルの活用

事業名	取組内容
情報発信の充実	Instagram、LINE、X、YouTube を活用し、市政情報や各種イベントなどを配信するとともに、市役所庁舎での情報発信ツールとしてデジタルサイネージを活用します。

(1) 「日本一魅力的なスローライフタウン」へのチャレンジ（つづき）

行政手続きのオンライン申請	市のイベントの参加、助成金等の申請手続きをオンラインで受け付けます。
証明書のコンビニ交付	コンビニにおいて、マイナンバーカードを用いて、住民票や課税証明書等の各種証明書を取得できます。
キャッシュレス決済の導入	市税や保険料、公共料金等の支払いについて、スマートフォン決済を導入しています。
オープンデータの公開	地域における新事業・新サービスの創出、行政サービスの高度化等を実現し、地域の経済活性化、課題解決等に寄与するため、市が持つ情報を公開します。
電子入札システムの運用	京都府の電子入札システムを運用し、入札事務の効率化を図ります。
ごみ分別アプリの導入	ごみ収集日やごみの分別を検索できるように、ごみ分別アプリを導入しています。
デジタルを活用した災害発生時等の対応	119 番緊急通報時における音声情報、通報現場の映像情報を通報現場と消防指令室間で迅速かつスムーズに共有することができる LIVE119 緊急通報システムや電話で通報することが困難な方に向けた NET119 緊急通報システムを導入しています。 また、災害現場での情報収集活動等のために、ドローンを活用するとともに、市民への避難情報をはじめとする災害情報の発信については、防災アプリを活用します。 加えて、閉域モバイル環境を導入し、テレワークの推進のみならず、災害など幹線ネットワークの障害にともなう予備回線として活用します。
京都府統合型地理情報システムの運用	都市計画基本図、市道情報等の都市計画に関する情報や埋蔵文化財の包蔵地等を GIS（統合型地理情報システム）を活用し、公開しています。
AI・RPA 技術の導入	BPR（業務プロセスの再構築）に取り組み、業務プロセスを見える化した上で、AI（人工知能）及び RPA（定型的な業務プロセスの自動化）の導入の可能性を探り、職員の総労働時間及び手作業の削減や住民サービスの向上を図ります。

(2)「人と人が支え合う暮らしの絆づくり」へのチャレンジ

【関係するSDGsのゴール】



人と人が支え合う絆のある豊かな暮らしづくりに向けて、地域コミュニティの活性化や市民参画・協働の取組を進めます。また、価値観や家族形態・就業形態の変化などライフスタイルの多様化や地域に暮らす外国人の増加などの社会情勢の変化に対応するため、互いに支え合いながら自ら活躍できる「地域共生社会」の実現にチャレンジします。

KPI (※4)	現状値 (R5)	目標値 (R11)
日本語教室の在籍者数	92 人	50 人
地域で活動する団体や住民が連携するネットワークの設置数	7 団体	6 団体
就労系サービス利用者及び一般就労移行者の数 (延べ人数)	2,615 人	2,500 人(R4)

施策	事業 (※6)
① コミュニティ活動による地域づくりの推進 自治連合会との連携により自治組織団体への加入の促進など地域コミュニティ活動の充実に取り組むとともに、コミュニティ施設等の整備等、地域の取組への支援を進めます。また、「談話」プロジェクトをはじめ、様々なコミュニティ組織による地域づくりと組織間の連携促進による地域づくりを推進します。	・自治連合会活動事業助成 ・自治会活動室管理運営 ・「談話」プロジェクト【再掲】 ・地域学校協働活動推進【再掲】等
② 多様な人々が互いに支え合い安心して暮らせる共生社会の推進 外国人住民の増加や価値観・ライフスタイルが多様化する中、同じ地域で暮らすあらゆる人々が、互いに助け合いながら自分らしく活躍できる「地域共生社会」の実現にチャレンジします。また、障がいの有無に分け隔てられることなく、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域生活支援事業の推進や創造活動、文化・スポーツ活動の推進により、障がい児・者の社会参画を促すとともに、地域における共生社会の推進に取り組めます。	・日本語教室の開催支援 ・多文化共生に向けた理解促進・啓発 ・くらしの相談事例集の活用 ・男女共同参画社会の推進 ・社会福祉協議会福祉事業助成 ・障がい者行事参加支援 ・地域共生社会実現サポート ・「談話」プロジェクト【再掲】等

(2) 「人と人が支え合う暮らしの絆づくり」へのチャレンジ（つづき）

●デジタルの活用

事業名	取組内容
外国語自動翻訳機設置	外国人住民への情報発信を適切に実施できるよう、作成した日本語の文章を外国語に翻訳できる機械翻訳システムを試行的に導入しています。

(3) やわた EDISON チャレンジ！

【関係するSDGsのゴール】



発明家トーマス・エジソンは、電灯の発明の際に、八幡の竹をフィラメントに使用したとされています。エジソンのようなチャレンジ精神に溢れた起業家やまちづくりの担い手の輩出を目指し、「やわた EDISON チャレンジ」の名称のもと、八幡発の担い手の発掘・育成等を図ります。

KPI (※4)	現状値 (R5)	目標値 (R11)
創業相談件数	16 件	40 件
担い手農家の農地利用集積面積	130ha	130ha
市民協働活動センター利用人数	1,426 人	2,200 人

施策	事業 (※6)
① 八幡発の創業の推進 チャレンジ精神に溢れた起業家の輩出に向け、創業支援など商工会と連携し、起業に係る経済的支援を推進します。	・ワンストップ相談窓口設置 ・融資保証料補給 ・融資利子補給 ・ 商工業活性化事業 等
② 農業の担い手の育成・強化と生産基盤の強化 八幡のまちの魅力である「農業」の活性化に向けて、関係団体等との連携により、認定農業者及び新規就農者の確保・育成を推進するとともに、耕作放棄地の発生防止や農家の経営安定化等を図るため、農地の利用集積の推進や必要となる施設整備や高度化等を支援します。	・地域農業担い手認定者支援 ・農業用施設改修等助成 ・排水事業負担軽減 ・有害鳥獣駆除 ・農地の利用集積推進 ・ スマート農業実装チャレンジ ・ アグリチャレンジング支援 等
③ まちづくりの担い手の育成 生涯学習を通じて市民の生活機能を高めることで、地域活動などの社会参加・社会貢献を促進し、担い手を発掘するとともに、市民協働活動センターの利用促進等により、担い手の育成につなげます。	・市民協働活動センター管理運営 ・市民協働活動事業助成 ・生涯学習推進（生涯学習人材バンクの活用） 等